

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かもろ・子ども発達支援すくすく（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和6年12月2日		～ 令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・家庭での様子を念頭に置いて活動を調整するなど柔軟に実践を展開しているため、有機的な支援が出来る。	・家庭での状況や、通園している園の様子等を踏まえた上で、子どもへの関わりを調整することが出来るので、生きた支援につながる。 ・毎回、その日の出来事をSNS等で伝えている。	・研修等で職員のスキルアップを図ることで、支援の質を上げる。
2	・子どもが登園を楽しみにしている。 ・子どもと職員との関係性が良い。子どもの気持ちに寄り添った関わりをしている。	・職員が一方向的に活動を展開するのではなく、子どもの興味関心を受けつつ、より意欲的に活動に取り掛かれるような関わりをしている。	・楽しい活動の中にも子ども自身が葛藤したりする経験の保障。
3	・毎年同じ時期に同じ活動をするのではなく、子ども達の自主性、主体性を尊重し、活動内容を柔軟に変化させることで、就学前に必要な経験を保障することが出来る。	・事前に月ごとの計画表を配り、子どもが保護者と確認しながら活動に期待感を持てるように工夫している。	・事業所、家庭と連携することで、より活動が効果的になるように配慮する。又「何故このタイミングでこの活動が必要なのか」保護者に支援内容の意味を考えてもらう取り組み。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの状況に応じて、柔軟に支援プログラムを組み立てるので、準備や制作等、実践実施までの職員の負担が大きい。	・子どもの発達要求を第一に考えて支援プログラムを考えるため、活動内容が質量ともに、増加の一途を辿っている。	・職員の労働環境等を考えて、「何が必要で、何を省くか」仕事内容をブラッシュアップする。
2	・活動するスペースが手狭である。	・登園人数の調整。活動に応じて屋外や別の場所での実施を検討する。	・長期的には移転を検討。
3	・ネットリテラシーの低さ。個人情報の取り扱い。	・職員全体としてネット上での個人情報の取り扱い、保護の意識が低い。ホームページ制作会社については再考の余地あり。 ・写真等付属するデータについての知識が低い。	・現状のままでは不十分。写真等の取り扱いについては、昨今のネット環境を鑑み、コンプライアンスを遵守し、適切に保護出来るように、長期的に対策を講じる。 ・職員研修の実施。